日本語教育（小学校）部会

豊かな表現力の育成
～伝え合う力を高める指導の研究～

Ⅰ　研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について，ここ数年取り組んできている。昨年度の研究の成果と課題を受けて，今年度も話すことと書くことを相互に密接に関連させながらの指導についての工夫を取り上げた。また，児童の伝えたいという意欲を喚起するような話題発掘と提示の仕方，児童につけさせたい言語能力に合わせた言語活動の開発にも取り組んでいきたいと考えた。

Ⅱ　研究の内容

1　「伝え合う力を高める指導」についての学習会（ワークショップ）

講師　井尻小学校　石田一元教頭先生

（1）ローテーションミーティング段階指導

鉛筆告白タイム→他者紹介→鉛筆対話→ローテーションミーティングと，段階を追っていくことで話し合う力を順次高めていく指導方法を学んだ。ローテーションミーティングとは，グループの移動だけではなく，全員が話し合い活動に参加しながら「考える（書く）→発表（話す）→聞く→話し合い→読む」を繰り返し，多くの人と多くの場で多くの考えを聞き・読み・発表することで，思考力・判断力・表現力を培っていく活動である。

（2）低学年における群読指導

谷川俊太郎作「かっぱ」「ののはな」「いるか」を通して，それぞれの読みを出し合い作品理解を深めグループごとに表現していく，学び合い高めあう群読指導の方法を学習した。

2　授業研究

（1）『みんなで話し合おう　－ローテーションミーティングを使って－』

加納岩小学校　3年生担任　嶌本弥生教諭

【目指す言語能力】互いの考えの共通点や相違点を考え，進行にそって話し合う力

・グループでの話し合い活動の中でメンバーをローテーションしながら多くの場で多くの人と話し合うことで伝え合う力を高めていくという学習活動である。

①段階的指導…児童の気持ちを盛り上げたり書くことに慣れたりするために，ゲーム的な要素の強い活動を取り入れ話し合い活動への素地を作っていった。

②形態の工夫…どの児童の主体的に参加できるようにローテーションミーティングを使って話し合い，その中で自分の考えを持ち・深め・表していけるようにした。

③書く活動…話し合う前に自分の意見をワークシート書くことで考えを整理し明確に

するようにした。また，話し合いの場面で模造紙に意見を記することで，相手の考えとの共通点や相違点を見つけやすくなり，話し合いを深めることにつながった。

（2）『音や様子を表す言葉』　　日下部小学校　2年生担任　渡邉祥子教諭

【目指す言語能力】言葉のおもしろさに気づき，考えながら読む力

・音を表す言葉（オノマトペ）の違いを読み取り，いろいろな音を表す言葉を集めてそれらの違いについて話し合い，発表する活動である。

①動作化…オノマトペを動作化したりセリフを入れたりすることで，抽象的なイメージを具体化し言葉の持つ印象を感じ取らせることができた。

②語彙を広げる…実生活の中から個々がオノマトペを集め，グループの友達と発表し合うことによって，語彙を広げることにつながった。

③話し合い…オノマトペが使われる場面や状況をグループごとに話し合うことで働きや感じ方の違いを知り，豊かな表現力の育成につなげていくことができた。

3　実践発表

（1）『ともこさんはどこかな』　　三富小学校　2年生担任　八巻恵子教諭

【目指す言語能力】大事なことを落とさずに話したり，聞いたりする力

・人混みの中から洋服や持ち物の特徴を注意して聞き，迷子を捜したり，迷子のお知らせに必要なことを選びアナウンスをしたりする活動である。

①題材選び…迷子をさがすというゲーム的要素を取り入れた活動に，大事なことを落とさずに最後まで聞こうとする態度が見られた。また，迷子のお知らせのアナウンスをする活動では，マイクに向かい楽しく話すことができた。

②付箋の活用…メモをとるときに付箋を活用することにより，キーワードを短くメモすることができた。また，張り替えが可能な点を生かし，アナウンスメモでの項目の入れ替えにも活用できた。

Ⅲ　成果と課題

○伝え合う力を支える言語能力を分析し，高めたい言語活動を明らかにした上での実践ができ，児童が意欲的に活動し，伝え合う力を高める指導法の研究ができた。

○ワークショップ形式の学習会で学んだことが，授業研究や日常の授業で生かすことができた。

○音声言語においても段階的指導の重要性や音声言語と文字言語との有機的な関連について学ぶことができた。

○「いかに自分の考えを持たせるのか」「その考えをいかに伝えるのか」「他者の考えをもとにしていかに自分の考えを再構築して伝えるのか」という流れを確立する学習材，及び指導方法の開発が重要である。

○次年度にむけては，子どもたちの考えを深め表現力をはぐくむために，音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導方法・教材開発の研究を継続し深めていくことが必要である，という意見が出された。

（部長　　那須　美佳）